



世界に希望を生み出そう

Rotary International District 2800

山形西ロータリークラブ会報

会長：長澤 裕二 幹事：三沢 大介

地区目標 ロータリーを語ろう そして ロータリーを楽しもう

クラブテーマ 新会員を育てながら、ロータリーを楽しもう

◆点鐘：五十嵐 信 副会長 ◆ロータリーソング：蔵王を仰ぐ
◆司会：斎藤 豪 S.A.A. ◆会場：山形グランドホテル



第2994回例会

令和5年10月16日(月)

副会長あいさつ

五十嵐 信 副会長



本日は長澤会長がご不在で、お話をさせていただけるということで、一生懸命お話をさせていただきます。今日私がお話をしたいのは、私がロータリーからもらったもの、感謝しているもの、このことについてお話をしたいと思います。

私の父もおじも2人ともロータリアンでしたので、本当に小さいころからロータリーの行事というのに出させていただいていました。私が小さいころというと、戦後まだ20年くらいで、日本はものすごく貧しい時だったんじゃないかなと思うわけですが、そんな中で、遠足とかクリスマスパーティーに連れて行ってもらって楽しませてもらいました。

私の人生にとって大きな転機になったのが、中学校1年生の時に家に交換留学生がやって来ました。ピーター・スイートン・スチュアートというオーストラリアからの留学生でした。彼は当時高校1年生で僕は中学校1年です。半年ピーターが家にいました。交換留学生が来たからといって、すぐ英会話できるはずもないんです。でもその時、家で一番きちんと英語を話していたのが母だったんです。当時ピーターが来るというので英会話の学校に行ったらいいんですね。ですからなんとなく通じるんです。「しちゃいけない」とか「よくやった」とか。コミュニケーションってそういうもんだなと子ども心に思いました。

その時に母が最後まで言っていたんですけれども「ピーターははたして本当に英語を話しているのか」と。彼はオーストラリアで、オーストラリアはちょっとアクセント違うんです。私も商社に入って最初の赴任地がオーストラリアだったんです。僕はシドニーにいたので、シドニーはちゃんとした英語を話すんです。ピーターが来たのはスワンヒルというところなんです。ヴィクトリア州のメルボルンからだいたい400キロくらいだと思うんです。バスで5時間くらいかけて行ったんですね。行ったら何話しているのかわからなくて。「ああやっぱりピーターってこういうところで育った子なんだな」というふうに最初に思ったのと、その時お聞きして驚いたのが、ピーターが来たのが1971年なんですけれども、1970年に山形とスワンヒルが姉妹都市の締結をしているんです。山形からいっぱい行ったらいいんですね。今ではちょっと考えられないですけども、やっぱりそういう大きなイベントだったんだなと思いました。

長々とお話をしましたが、そのピーターが来てくれたおかげで本当にいい経験をしました。交換留学生というのは、ロータリー、ロータリアンにとって唯一受けられるサービスらしいんですね。自分たちの子も交換留学生として候補に挙げることは可能で、お子さん、お孫さんが海外に興味を持たれているなら、ぜひ交換留学生というのはいいい機会じゃないかなと思います。

今年は長澤会長のご健康をお祈りをして、来年は遠藤会長のサポートをしっかりさせていただいて、再来年無事に迎えたいと思います。どうぞ皆さまのご指導よろしくお願ひします。ありがとうございます。

幹事報告

三沢 大介 幹事

- 10月1日にロータリー奉仕デーということで最上川清掃活動を多くの会員の方から参加していただきまして、実施することができました。拾ったゴミの量よりも我々が出したゴミの量が多いと思うような、それくらいきれいな河川数ではありましたが、ご協力いただきまして大変ありがとうございます。
- 本日、米山奨学生のチャンビンさんが来ておりますので、五十嵐副会長から奨学金をお渡しをお願いします。
- チャンビン奨学生からひとこと
こんにちは。本日、奨学金をいただき心からお礼申し上げます。先週、天童東クラブで卓話をさせていただきました。この前、皆さまの前でやったスピーチの内容と同じ内容だったのですが、少し緊張してしまい、ミスとかもありました。11月にも卓話が2回残っているのですが、その時はがんばっていきたくと思います。本当にありがとうございました。
- 本日例会終了後に理事会を開催いたします。該当される皆さんはよろしくお願ひいたします。
- 今月のロータリーのレートは149円です。

幹事報告

親睦・家族委員会

- 会員7名、奥様が2名、10月に誕生日を迎えられます。おめでとうございます。

ニコニコ BOX

〈10月16日〉

五十嵐信さん／会長の代わりにご挨拶

副会長として皆さまにお話します。お手柔らかにお願いします。

長谷川浩一郎さん／最上川一斉清掃へのご協力、ありがとうございました

10月1日開催の最上川清掃には早朝より多くの会員諸兄にご参加、ご協力をいただきまして誠にありがとうございました。主催の地区出向者として、クラブ内担当委員会として、感謝いたします。

武田秀和さん／社長就任しました

2023年10月1日より、有限会社秀鳳酒造場の代表取締役社長に就任しました。今後もより一層の努力をおこない、会社の存続と発展にがんばります。また、その前日の9月30日にはTBSの夕方のニュースで、シドニーでのイベントに出店している様子でインタビューを受けました。

市村清勝さん／パスラボ山形ワイヴァンズ連勝

パスラボワイヴァンズ山形が、昨日-昨日とアウェイで2連勝。開幕から3勝1敗といいスタートを切っています。これからも勝ちにこだわられワイヴァンズ。

富田浩志さん／感謝

10月7日、8日に日本遺産である出羽三山の鏡池にて“日本を美しくする会 山形掃除に学ぶ会”が、第8回目の鏡池清掃を実践いたしました。120名くらいの参加で、青空の下、皆さんに励んでいただきました。感謝申し上げます。

小野木健治さん／球風会秋季大会御礼

9月23日、蔵王カントリークラブにて球風会を開催いたしました。15名の有志とともに競技愛とクラブ愛を語り合い、懇親を深める有意義な会となりましたことを御礼申し上げます。優勝者は渡辺隆博さん。ベスグロ83で渡辺さんの完全優勝でありました。ニコニコはアウト2番、ワノンオンを逃した方の寄付金で進呈します。



～米山奨学金寄付～

遠藤栄次郎会員より五十嵐副会長へ寄付金の贈呈

会員卓話



米山奨学・学友の意義について

芦野 茂さん

〔R1第2800地区 米山奨学・米山学友委員長〕

本日は大変貴重なお時間を米山奨学説明の機会にいただきまして、誠に感謝申し上げます。先輩会員の方から「米山って何や？」ということを率直に聞かれましたので、本日は少し私のわかる範囲内でご説明させていただきます。

それでは米山記念事業の概要を3点、まずは大切な3点をご説明させていただきます。まず1つ目は、ロータリー米山記念奨学事業は日本が作り育てた独自の事業で、全国34地区が参加する国際ロータリーが定めた多地区合同活動になります。

2つ目、1952年に事業が始まって以来、一貫して日本で学ぶ外国人留学生を支援しております。公益財団法人ロータリー米山記念奨学会というのはこの事業を行うために日本のロータリーが共同して運営する奨学財団で、財源はすべて皆さまのご寄付によって成り立っております。

3つ目、この奨学金の最大の特徴は、世話クラブカウンセラー制度でございます。米山奨学生には世話クラブの例会や活動に参加してもらい、交流することを大切にしております。カウンセラーを経験した方からは「クラブ全員でお世話することでクラブの結束力がアップした」、「異文化とふれ合い、奉仕をしている実感が持てた」などと肯定的な意見が多く寄せられております。

続きまして、米山記念奨学会ができるまでのご説明させていただきます。ロータリー米山記念奨学金は、日本のロータリーの父、米山梅吉翁の名前を冠した事業です。と言いましても、梅吉さんの財産で作られたものではないです。米山梅吉翁は1868年、ロータリーの創設者、ポール・ハリス氏と同じ年に生まれました。遣米使節団の一員としてアメリカ滞在中、ダラスロータリークラブの会員であった福島喜三次さんと出会い、1920年に日本で初のロータリークラブ、東京ロータリークラブを設立いたしました。そのため、日本のロータリーの父と呼ばれております。福島喜三次さんは三井物産の子会社であるダラスの東洋綿花社長を務め、日本人初のロータリアンでございます。梅吉さんは日本で初めて信託会社、三井信託株式会社を設立したことで知られております。晩年は私財を投じて小学校を設立するなど、人生を通じて常に奉仕に情熱を傾ける人物でありました。

母の実家である静岡県三島で幼少期を過ごしたため、現在は三島に米山梅吉記念館があります。会館の裏にはお墓もあり、墓前に私も線香をあげてきました。しかし、米山梅吉は東京出身で、菩提寺は鶴見にある曹洞宗大本山總持寺でございます。三島にあるお墓は分骨により建てられたお墓になりますが、本当に骨があるかどうかは確認していませんと学芸員の方がおっしゃっておられました。

母の実家である静岡県三島で幼少期を過ごしたため、現在は三島に米山梅吉記念館があります。会館の裏にはお墓もあり、墓前に私も線香をあげてきました。しかし、米山梅吉は東京出身で、菩提寺は鶴見にある曹洞宗大本山總持寺でございます。三島にあるお墓は分骨により建てられたお墓になりますが、本当に骨があるかどうかは確認していませんと学芸員の方がおっしゃっておられました。

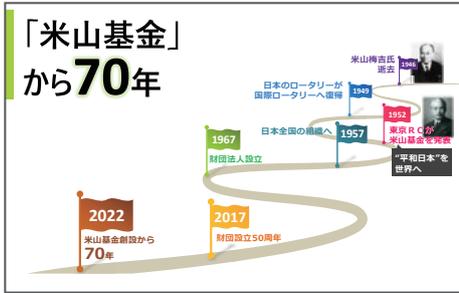
日本のロータリーの父

米山 梅吉氏 (1868-1946)

- ・ポール・ハリス氏と同じ1868年に誕生
- ・ダラスRC会員の福島喜三次氏と米国で出会い、1920年、日本で最初のロータリークラブ、東京RCを創立
- ・日本初の信託会社、三井信託株式会社を設立

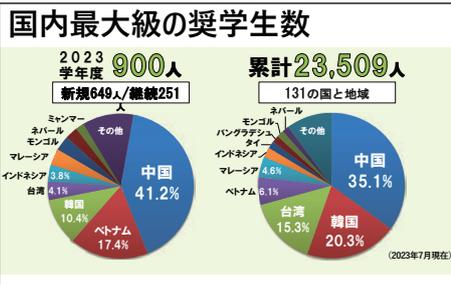


続いて、米山基金から70年ということで説明させていただきます。終戦翌年の1946年、米山梅吉さんが亡くなりました。戦争のため解散を余儀なくされた東京ロータリークラブでしたが、水曜クラブと名称を変え、比較的穏やかに例会を開くことができたそうです。もちろん国際ロータリーとの関係は断たれており、地区大会なども開かれることはございませんでした。



1949年、日本のロータリーが国際ロータリーへ復帰します。戦後の落ち着きを取り戻すにつれ、梅吉さんの功績を永遠（とわ）に偲ぶようなことができないかということでも声が大きくなったそうです。そして1952年、東京ロータリークラブの当時の会長、古沢文作氏が米山基金の構想を発表いたしました。これはアジアから優秀な学生を招いて学費を支援するとともに、二度と戦争の悲劇を繰り返さないため、平和日本を肌で感じてもらいたいというものでございました。この米山基金がわずか5年で日本の全ロータリークラブの共同事業となり、1967年には財団法人ロータリー米山記念奨学会が設立されました。

続いて米山奨学生の数や選考プロセスについて説明いたします。米山は外国人留学生を対象とする民間の奨学金では国内最大規模です。2023学年度は日本全国で900人、前年度は897人が採用され、各ロータリークラブでお世話をいただいております。累計では今年2カ国増え、世界131の国と地域から23,509人を支援しております。今年新たに採用された国はギリシャとポルトガルになります。累計では中国、韓国、台湾が多いですが、ここ数年、ベトナムからの留学生が急増しており、現役奨学生の中では中国に次いで多く占めております。



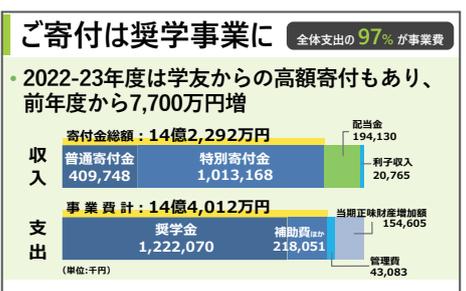
どうやって奨学生を選ぶかということで、選考会について説明させていただきます。米山奨学生の採用は全国統一の基準がございます。まず1つ目は、将来の目標、留学の目的がきちんとしているかどうか。2つ目は、交流への熱意があるかどうか。3つ目、人柄の良さ。4つ目、コミュニケーション能力の高さ。全国統一の評価項目を使って各地区選考委員会が面接選考をしております。もちろん応募書類も審査しております。

ロータリー米山記念奨学会は2012年に公益財団法人となり、より一層公平性・透明性を確保するため、全地区共通の選考基準で選考しております。その上で、例えば国籍や県別割合の調整、地区独自に実施するグループディスカッションの評価など、地区の裁量を加えてよいことになっております。米山奨学金はお金に困っている留学生の経済支援ではございません。貧しい国だから、生活に困っているから、あるいは学校の成績が優秀だから、ただそれだけでは米山奨学生に合格はいたしません。将来日本と世界を結ぶ懸け橋となって、国際社会で活躍し、ロータリーのみき理解者となる人材を育てる事業なのでございます。

寄付について説明いたします。昨年度の寄付金収入は

14億2,292万円、前年度は13億4,579万円と、その前の年度から7,700万円アップいたしました。皆さまのご寄付はほとんどが奨学金に使われておりますが、奨学金以外、例えば地区や世話クラブへの補助費、事業部門の職員人件費などでも一部使わせていただいております。

米山奨学事業は規模が非常に大きい事業であるにもかかわらず、管理費は支出のわずか3%でございます。超低金利時代ということもあり、管理費が利子収入を超えてしまうこともございますが、基本的には利子収入で賄っていくよう努めております。なお、全体で見ると、1億5,400万円の黒字となっており、今後の奨学金事業のために積み立てて計画的に支払いをしています。



寄付金の種類

米山奨学会への寄付は寄付金控除の対象です

普通寄付金	特別寄付金
<ul style="list-style-type: none"> ✓ 財団法人設立時の約束 ✓ 奨学会の安定財源 ✓ クラブで決定した金額 × 会員数 	<ul style="list-style-type: none"> ✓ 個人・法人・クラブからの任意寄付 ✓ 1円～OK! ✓ 表彰対象

寄付の種類についてご説明します。寄付の種類について、米山奨学会への寄付は大きく分けて2種類となります。クラブから会員数分を集める普通寄付金と、それ以外に個人、法人、クラブから任意で出す特別寄付金がございます。普通寄付金はかつて米山奨学会が財団法人を設立しようとした際、当時の文部省はなかなか首を縦に振ってくれませんでした。そこで普通寄付金の確約を国内全クラブからいただき、安定財源とすることを約束したことにより、ようやく財団法人設立の許可が下りたという経緯がございます。特別寄付は任意でいただくものです。こちらは個人やクラブ、法人の実績となり、表彰の対象となります。米山奨学会への寄付は寄付金控除の対象となり、確定申告をすれば所得税、法人税の税制優遇を受けることができます。

米山特別寄付金の個人の表彰となるバッジが1つ増えました。今までですと10万円は賞状、そこから100万円まではバッジがなかったのですが、今年度から特別寄付が50万円に達した場合はこの銀のピンバッジをいただけることになっております。

続きまして、これは地区別の個人平均寄付額です。昨年度の全国平均は16,960円で、その前の年より全体で989円アップいたしました。もっとも高かったのは2590地区、神奈川県横浜市と川崎市の合併のクラブで、27,903円でした。当地区は1人当たりの平均は10,643円、全国で27番目のご寄付をいただきました。皆さまのご協力に感謝申し上げます。

次は特別寄付の割合です。全国平均は47.3%、当地区は36.9%でございました。全国トップは第2650地区、福井・京都・奈良・滋賀のクラブチームで84%の会員が特別寄付をしていただいております。寄付の視野を少しでも広げることは理解を広めることもあり、地区奨学生採用アップにもつながります。今後も皆さまのご協力をお願いいたします。

それでは当クラブ、昨年度のクラブの成績を発表させていただきます。会員数100名、寄付額が159万円、特別寄付が109万5千円、寄付率が43%です。個人平均15,900円ということで、地区目標の15,000円を達成いたしました。

た。皆さま本当にご協力ありがとうございました。

続きまして、各学友会ではそれぞれ親睦を深めたり、自主的に社会奉仕活動をしたり、ロータリーの活動に協力したりしております。中でも米山学友会による世界大会は国内外の学友が持ち回りで主催する大きな大会であります。今年つくばで開かれた「再会in関東」は、関東10地区の米山学友会による共同開催という形で行われ、学友や現役奨学生、ロータリー会員など、日本国内外から1,209人が登録する大きな大会となりました。この様子は『ロータリーの友』10月号の米山だよりに詳しく記載されていますので、ご覧いただければと思います。参加した会員からは、口々に「行って良かった」と感動の声をいただきました。次は3年後、台湾でのロータリー国際大会に合わせて開催されます。私も今年度、伊藤ガバナーと大久保奨学

米山学友の世界大会「再会in関東」

- 2年に1度開催
- 第1回：熊本（2017年）
- 第2回：モンゴル（2019年）
- 第3回：つくば（2023年8月）
- 「再会 in 関東」
- 登録者数 1,209人
- 第4回は台湾で開催（2026年）



会理事と2泊3日で出席してまいりました。

本大会のイベントの中で、各地区学友会活動をポスターにし、

アピールする大会もございました。米山奨学理事長や理事の投票で決まるポスターの発表会がございました。各地区の学友会が説明などに一生懸命であり、私ども2800地区は見事4位で金一封をいただきました。その中で、地元のお菓子を持ち寄るブースもございまして、2800地区では隆一社長よりご協力いただいて、でん六豆を用意していただきました。小袋なので皆さんに配り、そのおかげもあり4位になれたと学友会が言っております。（笑）

海外の米山学友もがんばっております。少しご紹介したいと思います。今回は台湾、韓国、ネパール、そしてできたばかりのベトナムについて活動を紹介します。

まず、台湾米山学友会は台湾へ留学する日本人の若者に対し、奨学金を支援しております。今年で15年目になり、累計53もの日本人を支援しております。また、海外留学を考える台湾の学生に日本への留学を勧めたり、米山奨学金を紹介したりもしてくださっております。続きまして、あまり知られていませんが、韓国米山学友も2016年

韓国
米山学友会

韓国でも！日本人への奨学金 8年目、累計42人を支援。



台湾
米山学友会

日本人への奨学金15年目、累計53人支援。日本留学推進活動も。



から韓国へ留学する日本人の若者へ奨学金を支援しております。今年度は9人採用で、すでに累計42人もの日本人を支援してくださっております。続きましてネパールです。ネパール米山学友会では2015年のネパール大地震

で日本から寄せられた義援金をもとにして、ネパール国内の貧しい子どもたちへ教育支援を続けて来ております。最後にベトナム、ホーチミン市を中心とするベトナム南米山学友会が今年5月に正式に設立・承認されました。これまでも学友会という形ではなかったのですが、2015年から地元で奉仕活動をずっと続けてまいりました。これからの活動、活躍が大変期待される学友会でございます。

学友会からの恩返しということで、米山へのご寄付のほとんどはロータリー会員からのものですが、実は学友もこの事業を支えて来ています。米山学友会からは累計1億2,700万円にもものぼる寄付がございまして、この1億2,700万円

以外でも、日本で大きな災害が起きるたびに国内外から義援金が寄せられております。

最後に、知っていただきたいということで、私、西ロータリーと米山の関係を少し自分なりにまとめさせていただきました。このように米山と山形西ロータリークラブの関係を少しお話させていただきます。1978年から台湾のリン・ゾン・ホンさんをはじめ、今日まで15名を奨学生として受け入れており、10名のカウンセラーの方々にお世話をいただきました。先週14日土曜日の秋のカウンセラー研修会でも元裕社長のご実家、やまがたレトロ館をお借りしましてカウンセラー説明会を開催いたしまして、そのあと正明さんのお店のほうから芋煮を作って芋煮会をしたということで、大変西クラブの先輩方からはお世話になっております。

ここで地区委員会のご説明をさせていただきます。1985年に初めて米山委員会、コバヤシヨイチさんの名前が出てきております。その後、オカザキハルミさん、トヨダギイチ委員長、カシワグラマナブ委員長と、米山委員会をけん引しており、2000年からは尾形さんが意思を引き継ぎ、現在まで米山委員会に深く関わっております。これまでの西クラブと米山委員会のかかわりを懐かしんでいただきたいなと思ひまして、まとめてみました。

このように先輩方が築き上げた地区米山委員会です。現在は私のような者が委員長を仰せ預かっているのも、西クラブの金看板のおかげだと常日頃心より思っております。本日はご清聴ありがとうございました。

恩返しの気持ち

学友からの寄付

1億 2,700 万円

- 東日本大震災 約760万円
- 熊本大地震 上海から約20万円
- 熱海土砂災害 台湾から約150万円
- 遺言寄付 200万円 など...

毎月1万円、毎月2,000円などコツコツ継続寄付する学友もいます

米山地区委員会

- 2000-2004 尾形亨小委員長
- 2004-2005 武田周治
- 2005-2006 長澤純一郎委員長
- 2005-2010 鈴木隆一内3年間委員長
- 2012-2013 富田浩志
- 2017- 現在 芦野茂

本日出席 (10 / 16)	会員総数	出席会員数
	102名	59名